



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔米国基準〕(連結)

平成24年2月2日

上場取引所 東

上場会社名 コナミ株式会社

コード番号 9766 URL <http://www.konami.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上月 景正

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経営戦略部長 (氏名) 山地 康之

TEL 03-5771-0222

四半期報告書提出予定日 平成24年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高及び営業収入		営業利益		税引前四半期純利益		当社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	194,522	3.3	30,921	86.9	30,018	97.2	17,046	77.3
23年3月期第3四半期	188,308	△1.4	16,541	△3.4	15,224	△5.6	9,615	△9.5

(注)四半期包括利益 24年3月期第3四半期 15,361百万円 (—%) 23年3月期第3四半期 6,506百万円 (—%)

	1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	123.19	123.19
23年3月期第3四半期	72.04	72.04

(2) 連結財政状態

	総資産	資本合計(純資産)	株主資本	株主資本比率
	百万円	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	317,705	208,239	207,984	65.5
23年3月期	313,891	198,407	193,914	61.8

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	16.00	—	16.00	32.00
24年3月期	—	25.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	25.00	50.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高及び営業収入		営業利益		税引前当期純利益		当社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当社株主に帰属する当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	265,000	2.7	40,000	92.4	38,500	101.8	22,000	70.1	158.92

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 : 無
② ①以外の変更 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	143,500,000 株	23年3月期	143,500,000 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	4,877,912 株	23年3月期	7,359,029 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	138,377,599 株	23年3月期3Q	133,460,423 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予測には、本資料の発表日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予想が含まれております。世界経済、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性があります。なお、上記業績予想に関する事項は、添付資料6ページをご参照願います。

決算補足説明資料は、平成24年2月2日に当社ホームページに掲載する予定です。

(添付資料)

【目次】

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	5
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	6
2. その他の情報	7
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	7
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用	7
(3) 会計方針の変更	7
3. 四半期連結財務諸表等	8
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 継続企業の前提に関する注記	12
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	12
(6) セグメント情報	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

①当第3四半期連結累計期間の概況

当社グループを取り巻く経営環境は、一部では個人消費に回復の兆しが見られたものの、東日本大震災の影響や、円高及び欧州の通貨危機等により、依然として不透明な状況が続いております。

エンタテインメント市場におきましては、モバイル端末の普及を背景としたソーシャルネットワーキングサービス(SNS)の成長に伴い、ゲーム業界におけるビジネスチャンスは拡大しております。また、景気停滞の影響が顕著であったラスベガス等の観光客市場に底打ち感が出てきておりますが、大手カジノオペレーターの多くは投資に対し慎重かつ選別的な姿勢を継続しており、今後の市場動向を一層注視してまいります。

健康市場におきましては、景気の先行き不透明感から個人消費の抑制傾向が継続し、厳しい環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループのデジタルエンタテインメント事業におきましては、「ドラゴンコレクション」、「戦国コレクション」、「プロ野球ドリームナイン」を中心とするソーシャルゲームが好調に推移いたしました。また、家庭用ゲームソフトの「実況パワフルプロ野球2011」が人気を博したほか、欧米に続き、日本国内にて「ウイニングイレブン」シリーズの最新作「ワールドサッカー ウイニングイレブン2012」を発売し、堅調に推移いたしました。

ゲーミング&システム事業におきましては、ビデオスロットマシン「Podium」や、メカニカルスロットマシン「Advantage 5」及び「Advantage Revolution」等の販売とパーティシペーション（オペレーターとのプロフィットシェア方式）による収入が増加し、順調に推移しました。

遊技機事業におきましては、東日本大震災の影響を受けた部品調達等のサプライチェーンが回復する一方で、タイにおいて発生した大水害により、電子部品の一部が調達困難な状況になりましたが、生産活動への影響を最小限にとどめることができました。そのような中、「マジカルハロウィン3」が当社グループのパチスロ機において過去最多の出荷台数を記録したほか、オリジナルコンテンツを使用したパチスロ機「がんばれゴエモン2」を発売し、順調に推移いたしました。

健康サービス事業におきましては、多様化するお客様のニーズにあわせ、当社グループの強みである運動指導・栄養指導・健康管理のIT化を活かしたプログラムの開発・導入を進める等、健康意識の高まるお客様へ向けたサービスの提供に努めました。なお、東日本大震災により休館していた一部の直営施設につきましては、8月のコナミスポーツクラブ仙台長町（宮城県仙台市）を最後に全施設が営業を再開しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,945億2千2百万円（前年同期比3.3%増）となり、営業利益は309億2千1百万円（前年同期比86.9%増）、税引前四半期純利益は300億1千8百万円（前年同期比97.2%増）、当社株主に帰属する四半期純利益は170億4千6百万円（前年同期比77.3%増）となりました。

②事業の種類別セグメントの業績

事業別売上高及び営業収入（セグメント間含む）要約版

	前第3四半期 連結累計期間 (自2010年4月1日 至2010年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自2011年4月1日 至2011年12月31日)	増減率
	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
デジタルエンタテインメント事業	97,943	99,464	1.6
ゲーミング&システム事業	14,454	18,103	25.2
遊技機事業	11,544	15,559	34.8
健康サービス事業	65,104	62,052	△4.7
消去	△737	△656	△10.9
連結合計	188,308	194,522	3.3

(デジタルエンタテインメント事業)

ソーシャルゲームでは、当社が協賛し、熱戦が繰り上げられたプロ野球「コナミ日本シリーズ2011」との連動イベント等の効果もあり、累計登録者数がそれぞれ500万人、250万人を突破した「ドラゴンコレクション」、「戦国コレクション」や、「プロ野球ドリームナイン」等のコンテンツが登録者数を伸ばしており、順調に推移いたしました。また、新規タイトルとしても、G1レース優勝馬を含む、実写の競走馬カードを4,000枚以上収録した「ドリームスタリオン」等を配信し、より多くのお客様に楽しんでいただけるコンテンツを展開しております。

ゲームソフトでは、野球ゲーム「パワプロクンポケット14」と「実況パワフルプロ野球2011 決定版」を発売し、「コナミ日本シリーズ2011」の盛り上がりにより人気を博しました。また、欧米に引き続き国内向けでも「ウイニングイレブン」シリーズの最新作「ワールドサッカー ウイニングイレブン2012」を発売し、堅調に推移いたしました。その他、「メタルギア」シリーズにおいて「METAL GEAR SOLID HD EDITION」とPSP版で好評を博した「METAL GEAR SOLID PEACE WALKER」をPS3及びXbox360向けに発売いたしました。

アミューズメント機器では、「e-AMUSEMENT Participation (パーティシペーション)」（ユーザーのプレー代金をオペレーターとシェアする方式）を導入した「麻雀格闘倶楽部 ultimate version (アルティメットバージョン)」や、9月に稼働を開始した音楽シミュレーションゲーム「jubeat copious (ユビート コピオス)」が堅調に推移しております。また、対戦型リズムアクションゲーム「REFLEC BEAT limelight (リフレクビート ライムライト)」、ネットワークCo-opアクションシューティング「スティールクロニクル」や、32インチのワイドモニターの採用により、相手の動きを先読みし、より戦略的な操作が可能になった「WORLD SOCCER Winning Eleven ARCADE CHAMPIONSHIP 2012 (ワールドサッカー ウイニングイレブン アーケードチャンピオンシップ 2012)」の稼働を開始する等、幅広いジャンルでの展開を進めております。

カードゲームでは、「遊戯王トレーディングカードゲーム」シリーズのほか、トレーディングカードとソーシャルゲームの楽しさを融合させた「Digital Game Card (デジタルゲームカード)」シリーズを販売し、堅調に推移いたしました。

なお、当社グループのゲーム制作ノウハウを活用した活動として、WFP 国連世界食糧計画に協力し、世界の飢餓の現状や飢餓撲滅のための食糧支援活動を学べるソーシャルゲーム「Food Force」をFacebookにて全世界向けに配信開始しております。

以上の結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は994億6千4百万円（前年同期比1.6%増）となりました。

(ゲーミング&システム事業)

北米市場におきましては、定番となったビデオスロットマシン「Podium」やメカニカルスロットマシン「Advantage 5」及び「Advantage Revolution」等が引き続き好評を博しているほか、パーティシペーション（オペレーターとのプロフィットシェア方式）による収入も増加し、順調に市場シェアを獲得しております。また、オセアニア市場においては引き続き「Podium」の販売を進めているほか、欧州、中南米、アジア及びアフリカ市場においても、代理店網を整備し、拡販を進めております。

なお、10月にアメリカのラスベガスで開催されたゲーミング業界最大級の展示会「Global Gaming Expo」において、市場で安定した人気を誇る筐体「Podium」に新コンテンツを搭載して出展したほか、ソフト制御されるリアルタイム高解像度の3Dグラフィックに対応した次世代プラットフォーム「KP3」、「Advantage+」を一新した3リールメカニカルスロット「Advantage 3」、スラント型筐体に2重メカニカルリールを搭載した「Dynamic 5」や、プレミアム商品「Fortune Chaser」等、豊富なラインナップと高品質なコンテンツを披露し好評を博しました。また、「コナミ・カジノ・マネジメント・システム」のコーナーでは、リンクプログレッシブジャックポットの「Lot-A-Bucks」を出展し、同システムがもたらす幅広い機能についてのデモンストレーションを行い、高い評価を得ました。

11月には、アルゼンチンのブエノス・アイレスで開催された中南米で最大の国際的なゲーミングトレードショー「SAGSE Buenos Aires」において、北米で高稼働している人気コンテンツを中心に、中南米の規定に適合するようソフトウエアや紙幣識別機、言語表示、ナレーションを英語からスペイン語に変更した「Podium」や「Advantage 5」、スペイン語版では初披露となるリンクプログレッシブの「Beat the Field」と「Advantage Revolution」を出展し、好評を博しました。こうした現地ニーズに適したローカライゼーションによって、今後の中南米市場での販売拡大を進めてまいります。

以上の結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は181億3百万円（前年同期比25.2%増）となりました。

（遊技機事業）

東日本大震災の影響を受けた部品調達等のサプライチェーンが回復する一方で、タイにおいて大水害が発生し、一部で電子部品の調達が困難な状況になりましたが、当社グループにおいてはサプライヤーとの調整を重ねた結果、生産活動への影響を最小限にとどめることができました。そのような中、「マジカルハロウィン3」が当社グループのパチスロ機において過去最多の出荷台数を記録したほか、11月にはオリジナルコンテンツを使用したパチスロ機「がんばれゴエモン2」を発売し、順調に推移いたしました。

以上の結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は155億5千9百万円（前年同期比34.8%増）となりました。

（健康サービス事業）

市場環境は引き続き厳しい状況が続いておりますが、健康志向や高齢化に伴う介護予防への関心は高まっております。そのような状況の下、4月には「コナミスポーツクラブ 和泉府中」（大阪府和泉市）をオープンしました。市民の新たな交流拠点として期待されるように、総合的ゴルフ指導プログラム「コナミスポーツクラブ ゴルフアカデミー」を開設し、お子様向けにはスイミング、体育、ゴルフ、ジュニアファンク（ダンス系レッスン）、空手、合気道といった多様な種目を用意する等、幅広い年齢層にあわせた様々な目的やニーズに応える豊富なプログラムを用意しました。また、5月には「コナミスポーツクラブ グランサイズ大阪」（大阪府大阪市）をオープンし、西日本最大のターミナルであるJR大阪駅に直結する好立地で、フィットネススタジオやマシンジム、温浴施設、治療院を揃え、都会の中心においてワンランク上の贅沢なひとときを過ごしていただけるようなサービスを展開しております。このようにそれぞれの地域の特色にあわせたサービスの拡充を行うとともに、当社グループの強みである運動指導・栄養指導・健康管理のIT化を活かした健康増進プログラムの開発・導入を進める等、健康意識の高まるお客様に向けたサービスの提供に努めました。

受託施設運営では、「横浜国際プール」（神奈川県横浜市）、「湖西市複合運動施設」（静岡県湖西市）、「糸魚川市健康づくりセンター」（新潟県糸魚川市）、「宮崎市石崎の杜鯨鯨館」（宮崎県宮崎市）の運営受託を開始し、これまで培った運営・指導のノウハウや実績を役立て、各地域の公共施設運営を通じて地域社会の皆様の健康増進に取り組んでおります。

健康関連商品では、お客様の声のもと、従来品を更に魅力ある商品にリニューアルし、15種類の成分を配合した贅沢なコラーゲンドリンク「コラーゲンクリスタルリッチ」や、清く澄んだ”あづみの”の水「バイオメトリクスウォーターあづみの」を発売しております。

なお、東日本大震災により休館していた一部の直営施設につきましては、8月のコナミスポーツクラブ仙台長町（宮城県仙台市）を最後に全施設が営業を再開しました。

以上の結果、当事業における当第3四半期連結累計期間の売上高は620億5千2百万円（前年同期比4.7%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び株主資本の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比較して38億1千4百万円増加し、3,177億5百万円となりました。これは主として、現預金や売掛金、棚卸資産が増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比較して60億1千8百万円減少し、1,094億6千6百万円となりました。これは主として、短期借入金の返済や社債の償還、買掛金の減少等によるものであります。

(株主資本)

当第3四半期連結会計期間末における株主資本合計は、前連結会計年度末に比較して140億7千万円増加し、2,079億8千4百万円となりました。これは主として、四半期純利益の計上や、株式会社ハドソン（連結子会社）を株式交換により完全子会社化したことに伴う自己株式の処分等によるものであります。

なお、株主資本比率は、前連結会計年度末に比較して3.7ポイント増加し、65.5%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

	前第3四半期 連結累計期間 (自2010年4月1日 至2010年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自2011年4月1日 至2011年12月31日)	増減
区 分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,591	22,070	4,479
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,068	△4,263	4,805
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,942	△12,356	△6,414
為替変動の現金及び現金同等物に対する影響額	△1,316	△795	521
現金及び現金同等物の純増減(△)額	1,265	4,656	3,391
現金及び現金同等物の期末残高	52,005	64,197	12,192

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比較して46億5千6百万円増加し、当第3四半期連結累計期間末には641億9千7百万円（前年同期比23.4%増）となりました。

また、当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において営業活動により獲得した資金は、220億7千万円（前年同期比25.5%増）となりました。これは主として、四半期純利益が増加した一方、売上債権及び仕入債務に係る資金収支が減少したことや法人税等の納税額が増加したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において投資活動により使用した資金は、42億6千3百万円（前年同期比53.0%減）となりました。これは主として、設備投資等の資本的支出や定期預金の減少等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間において財務活動により使用した資金は、123億5千6百万円（前年同期比107.9%増）となりました。これは主として、短期借入金の返済や社債の償還等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の見通し

(デジタルエンタテインメント事業)

昨年の年末商戦において、携帯型ゲーム機「ニンテンドー3DS」の販売が伸張したほか、携帯型ゲーム機「PS Vita」の発売に注目が集まったことにより、それらに対応したゲームソフトが人気を博しました。一方、スマートフォンやタブレットPCの世界的な普及とSNSサイトの顕著な人気の高まりを受け、そこで使用されるゲームコンテンツの需要が増すとともに、特定のゲーム機向けに特化しない、多様なデバイスに対応したコンテンツ制作が求められてきております。

そのような状況のもと、当社グループは、コンテンツを軸にビジネスを展開することで、新しいデバイスの登場によって一つのコンテンツに対する出口が増えると捉え、それぞれのデバイスの特徴に合わせた遊び方を提案してまいります。

ソーシャルゲームでは、当社グループが展開するソーシャルゲーム全体の累計登録者が1,500万人を突破し、その後も着実に登録者数が増加しております。今後も拡大が見込まれる市場に経営資源をより一層集中し、「ドラゴンコレクション」、「戦国コレクション」、「プロ野球ドリームナイン」に続くヒットコンテンツを産み出すべく、これまでに培った制作・運営ノウハウや豊富なコンテンツを活かして、ラインナップの拡大を進めてまいります。

ゲームソフトでは、実写映画化が決定している「サイレントヒル」シリーズ等、グローバル展開のタイトル強化に注力してまいります。

アミューズメント機器では、「e-AMUSEMENT」を使った“人と人とのコミュニケーション”を通じてアミューズメント施設ならではの遊びを提供し、業界のさらなる活性化に取り組んでまいります。既にサービスを開始している電子マネー「PASELI」、「e-AMUSEMENT Participation」についても、順次対応機種やサービスの拡充を推進する等、業界を牽引する革新的なサービス提案を行ってまいります。

カードゲームでは、引き続き「遊戯王トレーディングカードゲーム」シリーズをグローバルに展開するほか、「Digital Game Card」シリーズも、順次新規ラインナップを発売していく予定であります。

(ゲーミング&システム事業)

スロットマシン販売については、好評を博しているビデオスロットマシンの「Podium」や、メカニカルスロットマシン「Advantage 5」及び「Advantage Revolution」等の積極的な販売を引き続き推進してまいります。また、ソフト制御されるリアルタイム高解像度の3Dグラフィックに対応した次世代プラットフォーム「KP3」の販売にも注力するとともに、市場のトレンドを的確にとらえた販売形式であるパーティシペーションの拡大により定期収入を増加させ、経営の安定化を図ってまいります。さらに今後は、欧州、中南米、アジア及びアフリカ市場についてもより積極的に参入してまいります。

その他、「コナミ・カジノ・マネジメント・システム」については、北米及び豪州市場において大手オペレーターを中心に導入を進めており、新機能の開発等による商品力強化に努め、今後も積極的に他市場へ向けた販売を行なってまいります。

なお、当社グループは、米国・豪州・日本の3拠点の連携をさらに強化し、経営の効率化や生産、販売の一層の強化を引き続き推進するとともに、当社グループの強みであるエンタテインメント性をベースに、社会の変化や需要に対応した新商品開発や既存商品の付加価値向上に努め、お客様により一層楽しんでいただける新商品を提案してまいります。

(遊技機事業)

オリジナルコンテンツで人気シリーズでもある「悪魔城ドラキュラ」の最新作や、「女番長（スケバン）」の発売を予定しており、引き続き当社グループのコンテンツを活用したパチスロ機の販売に注力してまいります。

今後も商品ラインナップを充実させ、制作・販売・生産体制の更なる強化に努めてまいります。

(健康サービス事業)

健康サービス事業では、多様化するお客様のニーズを的確に捉え、新たなライフスタイルの提案による「コナミスポーツクラブ」の付加価値向上を目指してまいります。また、300を超える国内最大規模のスポーツクラブを運営している強みを最大限に活用し、施設プログラムの充実・健康管理のIT化・商品拡充等の相乗効果を生み出し、事業を推進してまいります。

市場環境は引き続き厳しい状況が続くと思われませんが、高齢化社会の到来と国家レベルでの生活習慣病対策等を背景に、社会全体における健康意識は高まっており、スポーツクラブ運営や健康機器開発・販売等の健康増進提案の機会は

今後も広がっていくと思われま

当社グループでは引き続き、地域特性やお客様のニーズに合わせた施設展開や商品・サービスの拡大に努めてまいります。今後も事業環境の変化に応じて、施設内外を問わずに健康維持・増進を支援するサービスの拡充を目指してまいります。

一方、各施設では節電対策として、施設の営業時間・運営方法等、使用電力抑制対応を引き続き進めてまいります。

なお、当期の通期連結業績予想につきましては、デジタルエンタテインメント事業を中心として、各事業が引き続き好調に推移していること等の要因により、以下のとおり変更いたします。

<2012年3月期通期連結業績見通し>

(金額単位：百万円)

	2012年3月期見通し		2011年3月期実績	増減率 (対前期比)
	前回予想	今回予想		
売上高及び営業収入	258,000	265,000	257,988	2.7%
営業利益	33,000	40,000	20,791	92.4%
税引前当期純利益	31,500	38,500	19,082	101.8%
当社株主に帰属する当期純利益	18,500	22,000	12,934	70.1%

注意事項

本短信の業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみで全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。実際の業績は、様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを、ご承知おきください。実際の業績に影響を与え得る重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、市場の動向、対ドル、対ユーロをはじめとする円の為替レート等が含まれます。

2. その他の情報

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

- (2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

- (3) 会計方針の変更

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表等

(1) 四半期連結貸借対照表

区分	前第3四半期 連結会計期間末 (2010年12月31日)		当第3四半期 連結会計期間末 (2011年12月31日)		前連結会計年度末 (2011年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
(資産の部)						
I 流動資産						
1. 現金及び現金同等物	52,005		64,197		59,541	
2. 受取手形及び売掛金(貸倒引当金控除後)－2010年12月31日、2011年12月31日及び2011年3月31日現在の貸倒引当金はそれぞれ504百万円、334百万円及び275百万円	31,201		34,076		28,564	
3. 棚卸資産	29,588		28,094		25,479	
4. 繰延税金資産	22,228		20,992		23,239	
5. 前払費用及びその他の流動資産	10,875		8,094		12,111	
流動資産合計	145,897	47.5	155,453	48.9	148,934	47.4
II 有形固定資産	61,374	20.0	59,593	18.8	59,508	19.0
III 投資及びその他の資産						
1. 市場性のある有価証券	147		131		140	
2. 関連会社に対する投資	2,100		2,133		2,131	
3. 識別可能な無形固定資産	35,108		41,329		41,565	
4. 営業権	21,842		21,853		21,880	
5. 差入保証金	27,451		26,800		27,360	
6. 繰延税金資産	3,541		983		2,934	
7. その他の資産	9,448		9,430		9,439	
投資及びその他の資産合計	99,637	32.5	102,659	32.3	105,449	33.6
資産合計	306,908	100.0	317,705	100.0	313,891	100.0

区分	前第3四半期 連結会計期間末 (2010年12月31日)		当第3四半期 連結会計期間末 (2011年12月31日)		前連結会計年度末 (2011年3月31日)	
	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
(負債の部)						
I 流動負債						
1. 短期借入金	—		2,400		4,000	
2. 1年内返済予定の長期借入債務	5,000		5,000		5,000	
3. リース債務	1,860		2,476		1,783	
4. 支払手形及び買掛金	19,221		14,837		19,003	
5. 未払税金	5,581		7,090		6,121	
6. 未払費用	17,264		18,452		16,747	
7. 前受収益	9,712		9,215		4,804	
8. その他の流動負債	6,139		5,433		5,697	
流動負債合計	64,777	21.1	64,903	20.5	63,155	20.1
II 固定負債						
1. 長期借入債務(1年内返済予定分を除く)	10,000		5,000		10,000	
2. リース債務	25,968		25,346		25,516	
3. 未払退職・年金費用	2,830		1,906		2,932	
4. 繰延税金負債	4,344		3,585		5,503	
5. その他の固定負債	8,818		8,726		8,378	
固定負債合計	51,960	16.9	44,563	14.0	52,329	16.7
負債合計	116,737	38.0	109,466	34.5	115,484	36.8
(契約債務及び偶発債務)						
契約債務及び偶発債務						
(純資産の部)						
I 株主資本						
1. 資本金	47,399	15.4	47,399	14.9	47,399	15.1
普通株式—無額面： 授権株式数 450,000,000株、 発行済株式数 2010年12月31日、2011年 12月31日及び2011年3月31日現在 143,500,000株						
2. 資本剰余金	77,089	25.1	74,175	23.4	75,490	24.0
3. 利益準備金	284	0.1	284	0.1	284	0.1
4. 利益剰余金	86,930	28.3	101,599	31.9	90,250	28.8
5. その他の包括利益(損失)累計額	△3,284	△1.0	△4,231	△1.3	△2,547	△0.8
6. 自己株式—取得原価 2010年12月31日現在 10,040,161株 2011年12月31日現在 4,877,912株 2011年3月31日現在 7,359,029株	△23,188	△7.5	△11,242	△3.5	△16,962	△5.4
株主資本合計	185,230	60.4	207,984	65.5	193,914	61.8
II 非支配持分	4,941	1.6	255	0.0	4,493	1.4
純資産合計	190,171	62.0	208,239	65.5	198,407	63.2
負債及び純資産合計	306,908	100.0	317,705	100.0	313,891	100.0

(2) 四半期連結損益計算書

区分	前第3四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年12月31日)		当第3四半期 連結累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年12月31日)		前連結会計年度 (自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)	
	金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)	金額(百万円)	百分比 (%)
I 売上高及び営業収入						
1. 製品売上高	129,680		138,053		180,582	
2. サービス収入	58,628		56,469		77,406	
売上高及び営業収入合計	188,308	100.0	194,522	100.0	257,988	100.0
II 営業費用						
1. 製品売上原価	80,019		72,542		113,699	
2. サービス原価	57,278		53,032		75,333	
3. 販売費及び一般管理費	34,470		37,685		46,253	
4. 震災関連損失	—		342		4,455	
5. 負ののれん発生益	—		—		△2,543	
営業費用合計	171,767	91.2	163,601	84.1	237,197	91.9
営業利益	16,541	8.8	30,921	15.9	20,791	8.1
III その他の収益(費用)						
1. 受取利息	192		166		268	
2. 支払利息	△1,163		△1,081		△1,541	
3. 為替差損益—純額	△335		32		△342	
4. その他—純額	△11		△20		△94	
その他の収益(費用)—純額	△1,317	△0.7	△903	△0.5	△1,709	△0.7
税引前四半期(当期)純利益	15,224	8.1	30,018	15.4	19,082	7.4
IV 法人税等	5,393	2.9	12,879	6.6	6,401	2.5
V 持分法投資利益(損失)—純額	27	0.0	25	0.0	41	0.0
非支配持分控除前四半期(当期)純利益	9,858	5.2	17,164	8.8	12,722	4.9
VI 非支配持分帰属利益(損失)	243	0.1	118	0.0	△212	△0.1
当社株主に帰属する四半期(当期)純利益	9,615	5.1	17,046	8.8	12,934	5.0

(1 株当たり情報)

区分	前第3四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年12月31日)	前連結会計年度 (自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)
1株当たり当社株主に帰属する四半期(当期)純利益	72.04円	123.19円	96.48円
潜在株式調整後1株当たり当社株主に帰属する四半期(当期)純利益	72.04円	123.19円	96.48円
加重平均発行済株式数	133,460,423株	138,377,599株	134,065,450株
潜在株式調整後発行済株式数	133,460,423株	138,377,599株	134,065,450株

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第3四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年12月31日)	前連結会計年度 (自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)
区分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
非支配持分控除前四半期(当期)純利益	9,858	17,164	12,722
営業活動によるキャッシュ・フローへの 調整項目			
減価償却費	9,165	7,082	12,388
貸倒引当金の純増減(△)	△196	23	△192
震災関連損失	—	—	4,455
負ののれん発生益	—	—	△2,543
有形固定資産除売却損益(△)	60	256	271
持分法投資損益(△)	△27	△25	△41
繰延税額	△1,830	1,625	△918
資産及び負債の増減			
受取手形及び売掛金の純増(△)減	△2,044	△6,431	2,385
棚卸資産の純増(△)減	△7,700	△3,676	△2,632
未収入金の純増(△)減	143	312	20
前払費用の純増(△)減	△1,005	33	101
支払手形及び買掛金の純増減(△)	3,715	△3,719	2,357
未払税金及び未収税金の純増減(△)	2,249	2,662	576
未払費用の純増減(△)	813	2,107	△425
前受収益の純増減(△)	3,789	4,608	△1,157
前受金の純増減(△)	△326	△353	△185
預り金の純増減(△)	482	413	△117
その他—純額	445	△11	△460
営業活動によるキャッシュ・フロー	17,591	22,070	26,605

	前第3四半期 連結累計期間 (自 2010年4月1日 至 2010年12月31日)	当第3四半期 連結累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年12月31日)	前連結会計年度 (自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)
区分	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
資本的支出	△7,803	△6,189	△10,554
有形固定資産の売却による収入	8	7	8
新規子会社の取得による収入	—	—	679
差入保証金の純増(△)減	50	493	497
定期預金の純増(△)減	△1,325	1,412	△1,412
その他—純額	2	14	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,068	△4,263	△10,773
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の純増減(△)	—	△1,600	680
長期借入債務の返済による支出	△204	—	△278
社債の償還による支出	—	△5,000	—
リース債務の元本返済による支出	△2,042	△1,735	△2,678
配当金の支払	△5,670	△5,546	△5,785
自己株式の取得による支出	△2	△24	△101
セール・アンド・リースバック取引による収入	1,975	1,547	1,975
その他—純額	1	2	5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△5,942	△12,356	△6,182
IV 為替変動の現金及び現金同等物に対する影響額	△1,316	△795	△849
V 現金及び現金同等物の純増減(△)額	1,265	4,656	8,801
VI 現金及び現金同等物の期首残高	50,740	59,541	50,740
VII 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	52,005	64,197	59,541

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、当社の連結子会社である株式会社ハドソンとの株式交換契約に従い、2011年4月1日に株式交換を実施し、同社を当社の完全子会社としました。これに伴い、同社の株主に対して割当てた当社株式の公正価値と非支配持分の簿価との差額は、連結貸借対照表上、資本剰余金として調整され、株主資本が43億5千6百万円増加し、非支配持分が同額減少しております。

(6) セグメント情報

①事業別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間(自 2010年4月1日 至 2010年12月31日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	ゲーミング&システム 事業 (百万円)	遊技機事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	97,446	14,454	11,542	64,866	—	188,308
(2)セグメント間の内部売上 高又は振替高	497	—	2	238	△737	—
計	97,943	14,454	11,544	65,104	△737	188,308
営業費用	84,985	10,680	8,267	63,789	4,046	171,767
営業損益	12,958	3,774	3,277	1,315	△4,783	16,541

当第3四半期連結累計期間(自 2011年4月1日 至 2011年12月31日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	ゲーミング&システム 事業 (百万円)	遊技機事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	98,949	18,103	15,537	61,933	—	194,522
(2)セグメント間の内部売上 高又は振替高	515	—	22	119	△656	—
計	99,464	18,103	15,559	62,052	△656	194,522
営業費用	75,175	13,038	11,741	60,002	3,645	163,601
営業損益	24,289	5,065	3,818	2,050	△4,301	30,921

前連結会計年度(自 2010年4月1日 至 2011年3月31日)

	デジタルエンタテインメント 事業 (百万円)	ゲーミング&システム 事業 (百万円)	遊技機事業 (百万円)	健康サービス 事業 (百万円)	全社・消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益						
売上高						
(1)外部顧客に対する売上高	132,474	21,868	17,985	85,661	—	257,988
(2)セグメント間の内部売上 高又は振替高	650	—	2	250	△902	—
計	133,124	21,868	17,987	85,911	△902	257,988
営業費用	116,099	15,420	11,788	88,456	5,434	237,197
営業損益	17,025	6,448	6,199	△2,545	△6,336	20,791

1. 各事業別セグメントにおける主な事業内容は、以下のとおりであります。

- | | |
|------------------|---|
| ①デジタルエンタテインメント事業 | ソーシャルゲーム、オンラインゲーム、ゲームソフト、アミューズメント、カードゲーム等のデジタルコンテンツ及びそれに関わる製品の制作、製造及び販売 |
| ②ゲーミング&システム事業 | カジノ施設向けゲーミング機器及びカジノマネジメントシステムの開発、製造、販売及びサービス |
| ③遊技機事業 | パチスロ機及びぱちんこ機用液晶ユニット等の制作、製造及び販売 |
| ④健康サービス事業 | スポーツクラブ施設運営、健康関連商品の制作、製造及び販売 |

2. 全社の項目は、主に本社費用から構成されております。

3. 消去の項目は、主にセグメント間取引高消去及び棚卸資産の未実現利益消去等から構成されております。

②所在地別セグメント情報

前第3四半期連結累計期間（自 2010年4月1日 至 2010年12月31日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	141,492	26,843	14,555	5,418	188,308	—	188,308
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	12,937	1,350	1,581	470	16,338	△16,338	—
計	154,429	28,193	16,136	5,888	204,646	△16,338	188,308
営業費用	145,188	23,592	14,254	4,942	187,976	△16,209	171,767
営業損益	9,241	4,601	1,882	946	16,670	△129	16,541

当第3四半期連結累計期間（自 2011年4月1日 至 2011年12月31日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	154,306	25,033	9,696	5,487	194,522	—	194,522
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	8,536	2,048	256	162	11,002	△11,002	—
計	162,842	27,081	9,952	5,649	205,524	△11,002	194,522
営業費用	138,179	22,013	9,538	4,974	174,704	△11,103	163,601
営業損益	24,663	5,068	414	675	30,820	101	30,921

前連結会計年度（自 2010年4月1日 至 2011年3月31日）

	日本 (百万円)	米国 (百万円)	欧州 (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	計 (百万円)	消去 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益							
売上高							
(1)外部顧客に対する売上高	194,431	36,870	19,525	7,162	257,988	—	257,988
(2)セグメント間の内部売上高 又は振替高	17,368	1,837	1,661	710	21,576	△21,576	—
計	211,799	38,707	21,186	7,872	279,564	△21,576	257,988
営業費用	201,244	32,144	18,670	6,687	258,745	△21,548	237,197
営業損益	10,555	6,563	2,516	1,185	20,819	△28	20,791

外部顧客に対する売上高については、当社及び子会社が製品の販売もしくはサービスを行っている場所に基づいてそれぞれの地域を決定しております。

(注記)

この連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められた会計原則に基づいて作成しております。